

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

REC'D 12 JAN 2006

WIPO

PCT

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
〔PCT36 条及び PCT 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PCT2004KP119	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/011968	国際出願日 (日.月.年) 20.08.2004	優先日 (日.月.年) 22.08.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. B01J23/88, 38/00, C07C45/32, 47/22, 51/235, 57/055		
出願人 (氏名又は名称) 三菱化学株式会社		

1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で _____ ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の單一性の欠如
 第 V 欄 PCT35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 23.08.2004	国際予備審査報告を作成した日 21.12.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 後藤 政博
	4G 8926
	電話番号 03-3581-1101 内線 3416

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- 出願時の言語による国際出願
 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
 國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
 國際公開 (PCT規則12.4(a))
 國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

- 出願時の国際出願書類

- 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

- 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

- 明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

- 明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 <u>2-5, 7-11</u>	有
	請求の範囲 <u>1, 6</u>	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 <u>3-5, 8, 9</u>	有
	請求の範囲 <u>1, 2, 6, 7, 10, 11</u>	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 <u>1-11</u>	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

- 文献1 : JP 2002-338543 A (三井化学株式会社) 2002.11.27, 【0010】 - 【0014】
 文献2 : JP 2002-136881 A (バブコック日立株式会社) 2002.05.14, 請求の範囲,
 実施例
 文献3 : JP 2592877 B2 (シーアールアイ インターナショナル インコーポ レーテッド)
 1996.12.19, 4欄6行-34行, 6欄46行-7欄6行, 第1図
 &WO 1987/005232 A1 &EP 479343 A2 &US 4720473 A
 文献4 : JP 48-97788 A (三菱重工業株式会社) 1973.12.12, 請求の範囲, 実施例

請求の範囲1に係る発明は、文献1-4のそれぞれに記載されているので、新規性、進歩性を有しない。文献1-4には、反応で劣化した触媒を反応器から抜き出してから、再生することが記載されている。

請求の範囲2に係る発明は、文献2により進歩性を有しない。文献2には、廃触媒を無機纖維と触媒成分とに分離して、触媒成分を回収することが記載されている。

請求の範囲6に係る発明は、文献3, 4のそれぞれに記載されているので、新規性、進歩性を有しない。文献3, 4には、形状の異なる複数種の固体触媒成分を含み、抜き出し工程の後、それぞれの固体触媒成分を分離することが記載されている。

請求の範囲7に係る発明は、文献3により進歩性を有しない。文献3には、円筒状の触媒粒子であるピルを、長さの直径に対する比 (L/D) が1以上と (L/D) が1未満とのピルに分離する際に、スクリーンを使用することが記載されている。

請求の範囲10, 11に係る発明は、文献1-4により進歩性を有しない。文献1-4に記載の事項を、周知の複合酸化物触媒に転用することは、当業者であれば容易なことである。

請求の範囲3-5, 8, 9に係る発明は、文献1-4のいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。